

山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



▲講演を聞く参加者たち

職場のハラスメント対策について学ぶ

定例懇談会 職場における体制整備が必要

定例懇談会が2025年10月10日（金）に流通会館で開催され、組合員・準組合員44人が参加した。

講師には、厚生労働省 山梨労働局 雇用環境・均等室 室長の和田沙織氏をお招きし、「職場におけるハラスメント対策等について」と題した講演を行っていただいた。



和田氏は、ハラスメントの経験がある勤務先の特徴として、「上司と部下のコミュニケーションが少ない」「従業員の年代に偏りがある」「人手が常に不足している」といった共通点が

見られると説明。「労働者等調査」の結果では、ハラスメントを一度でも受けた経験がある場合、心身への影響が強く表れ、頻度が増すほど不眠、休職、通院、服薬といった深刻な状態に至るケースが多いと報告された。そのため、企業にハラスメントを未然に防ぐ取り組みが求められると述べた。

一方で、取り組みを進める上では、「事案がハラスメントに該当するか否かの判断が難しい」といった課題もある。参加者からは「実際に相談があった場合、ハラスメント認定の基準やガイドラインはあるのか」といった質問も寄せられた。

和田氏は、「労働局への相談や『ハラスメント対策総合情報サイト』を積極的に活用してほしい」と呼びかけ、各種ツール等の紹介をして講演を終えた。

▲山梨県労働局 雇用環境・均等室 室長 和田沙織氏

『組合運営と施設管理の取組み』『被災地の現状と復興の課題』学ぶ

協同組合金沢問屋センター・輪島市朝市周辺被災地を組合役員が視察

当組合の役員および事務局（計12人）は、2025年10月24日（金）から25日（土）にかけて視察・研修を実施した。1日目は石川県金沢市の協同組合金沢問屋センターを訪問し、2日目には同県輪島市朝市周辺の被災地を視察した。

『協同組合金沢問屋センター』

同組合の、高桑幸一理事長、川崎専務理事、協田事務局次長より説明を受けた。昭和38年10月に設立され、金沢駅前の卸問屋が集団移転して造成された団地である。現在は組合員103社、準組合員50社が加盟し、団地面積約10万4千坪、従業員1,861人を擁する。事業内容は、会館運営や不動産賃貸などの収益事業、各種研修、厚生事業、団地管理、地域貢献など多岐にわたる。鉄筋コンクリート造・地上4階建ての組合会館は築40年を超えるが、丁寧に維持管理されており、今後段階的にリニューアルを進める予定とのことであった。当組合でも会館の老朽化が課題であり、維持管理や再整備を検討するうえで大いに参考となった。併せて、組合の事業運営にも多くの示唆を得る有意義な視察となった。



『輪島市朝市周辺被災地』

令和6年能登半島地震および奥能登豪雨災害で甚大な被害を受けた輪島市朝市周辺を視察した。火災により朝市通りでは200棟以上、約5万平方メートルが焼失し、現在も撤去・修繕作業が続く。歩道には亀裂や段差が残り、復興には長い時間を要する様子がうかがえた。現地ではボランティア案内人より、地震当時の状況や仮設住宅での生活について説明を受け、自然災害の恐ろしさと復興支援の重要性を改めて実感した。また、人口流出や建物建替費用高騰による復興の遅れなど、地域再生の難しさも痛感した。案内人からは「現状を知り、輪島を忘れないでほしい」との言葉が寄せられた。今回の視察を通じ、地域の防災・復興における継続的支援の必要性を強く認識し、今後の組合活動に活かしていきたい。



出席者65人懇親深める

納涼懇親会 にぎやかに交流

当組合の納涼懇親会が2025年7月18日（金）甲府記念日ホテルで開かれた。多くの来賓を招き、組合員、準組合員、来賓、事務局含めて65人が出席し、終始にぎやかな会となった。

今年は山梨県で栽培されているブドウの品種をテーブル名とし、『巨峰』のほか10卓が並んだ。

開会に当たり中込理事長は「第53回の総会を終えて、当組合は財政的に素晴らしい状態となっている。これも組合員の皆様のご協力によるもので、今後は当組合を山梨県の商業・物流の中核として育てていきたい。今後も厳しい経営環境が続く状況の中で

あるが、組合員の皆様と一緒に山梨県流通センターを盛り上げていきたい」と話された。

来賓を代表して山梨県産業政策部 有泉清貴部長と中央市 望月智市長よりご祝辞を賜り、乾杯のご発声を山梨県中小企業団体中央会 栗山直樹会長より頂戴した。また、会の終盤では、本年5月の通常総会をもって当組合役員を退任された(株)栗山商店 栗山直樹会長と中央物産(株) 保坂吉彦会長に花束が贈呈された。出席者たちは料理や酒を楽しみながら歓談し、懇親をさらに深めた。



▲歓談する出席者たち



▲役員退任の花束贈呈の様子

営業力強化セミナー

営業への意識が変わる2日間に

2025年営業力強化セミナーが流通会館で開かれ、4社6人が参加した。

本セミナーは、(株)学宣 専任講師の小林 徹氏を迎え、7月14日（月）に営業基礎、9月16日（火）は7月の内容を踏まえたフォローアップ研修を実施した。

小林講師は、お客様との関係性強化の方法や、事前準備の重要性、トークに活かせるテクニック等について説明された。営業担当者は、お客様との関係性を構築することだけでなく、売り上げの目標数字を達成させることが重要な役割であり、そのためには目標を明確に掲げ、実現させる志を持つことが大切だと述べた。



▲(株)学宣 専任講師 小林 徹氏

研修では、グループワークを通じて受講者同士が意見を交換し、目標達成のためのマンダラチャートを作成するなど、自身の役割や、目標を改めて明確化した。

受講者からは、「営業では常に新しい知識を身に付け、お客様の役に立つために100%の力を注がなければならないと難しく考えていたが、世間話や何気ない会話から関係性を築き、ニーズを知ること大切だと気付いた」「営業職にはマイナスなイメージもあったが、数年後の自分の姿が楽しみに思えるようになった」といった声が寄せられ、研修を通じて営業に対するイメージや意識が大きく変化する有意義な機会となった。



▲グループワークの様子

さらなる成長を目指す

新入社員 フォローアップ研修 グループワークで旅行プランを発表

新入社員フォローアップ研修が2025年10月9日（木）、10日（金）の両日、流通会館で開かれ、4社8人が参加した。

講師の(株)学宣 鬼塚啓介氏は、受講者に4月の新入社員研修から半年が経過した自身の行動を振り返らせ、そこから更なるブラッシュアップを図るために、問題意識の向上、ビジネスマナーの再確認、2年目を迎えるまでの残り半年間の行動計画の策定を促した。

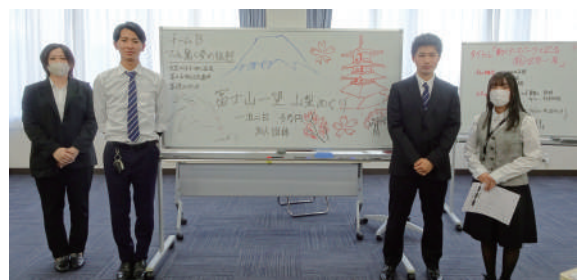
研修の中で鬼塚講師は、問題意識向上のため「創造的発想法」と呼ばれる手法を用いて、受講者が旅行会社の社員となりお客様に向けた旅行プランを

提案するよう課題を出した。受講者たちはグループごとに意見を出し合い、グループAは『動くテーマパークで巡る㊦世界一周』、グループBは『富士山一望 山梨めぐり』といった独創的な旅行プランを考案し、発表しあった。

研修を終えた受講者からは、「新入社員研修から半年が経ち、自分の成長と課題を再認識できた」「グループで討論する機会が少なかったので勉強になった」といった声が聞かれた。本研修は、受講者が自身の成長を実感するとともに、社会人2年目に向けた意識をさらに高める貴重な機会となった。



▲グループA



▲グループB

働き方改革支援事業 好事例の報告および実施結果報告

当組合では、働き方改革支援事業として、社会保険労務士による巡回指導の実施、労働能率の増進に向けた電子黒板の購入及びデジタルシステムを導入。以下は事業の実施及び進捗状況の報告である。

1.社会保険労務士による巡回指導の報告

2025年7月より、組合員の時間外労働削減に向けた労務環境の整備と生産性向上を目的として、希望する組合員を対象に、社会保険労務士による巡回指導を実施した。巡回指導は1回2時間で、計10社が活用した。

相談内容は、時間外労働の削減、両立支援等の助成金、育児休暇、フレックス制度の導入、親の介護と仕事の両立、法改正への対応、給与（賃金）体系、熱中症対策、社員の健康管理や課題への取り組み、ハラスメント（セクハラ・パワハラ・カスハラ）など多岐にわたり、各社は自社の労働環境改善に向けて、社会保険労務士の助言を受けた。

2.巡回指導の中で得られた好事例に関する報告

社会保険労務士による巡回指導を通じて得られた好事例を紹介する。

業務改善助成金の活用

A社では生産性向上を目的とした設備投資等を実施するにあたり、業務改善助成金の活用を行う。業務改善助成金とは、事業場内最低賃金の引き上げ計画と、生産性向上に資する設備投資計画（例：機械設備の導入、業務改善のためのコンサルティング、人材育成・教育訓練など）を併せて実施する事業者に対し、設備投資等にかかる費用の一部を助成する制度である。これらの取り組みにより、社内の労務環境が整備され、従業員の賃金引き上げのみならず、時間外労働の削減や業務効率の向上にもつながることが期待される。

残業時間の是正に関する取り組み

B社は水曜日を「ノー残業デー」と定めている。この取り組みにより、従業員のプライベート時間を確保できるだけでなく、定時退社を意識した業務効率の向上にもつながる。さらに、「ノー残業デー」以外の曜日においても、時間外労働の削減を促す効果が期待できる。

オンライン会議の活用

C社は事業所数約30ヶ所、従業員数約150名を有しており、全従業員を一箇所に集めて全体会議を実施することは困難である。そのため、社内の全体会議にはオンライン会議を活用している。これにより、従業員の移動時間を削減でき、時間外労働の是正につながっている。

社内研修の実施方法

D社は従業員全体を対象とした研修を行う際、オンライン会議の活用に加え、研修内容を動画サイトにアップロードする工夫をしている。業務の都合でリアルタイムの参加が難しい従業員も、隙間時間を活用して研修を受講することが可能となる。この取り組みにより、時間外労働の是正が図られるとともに、従業員の能力向上にも寄与している。

業務ローテーションによる業務効率化

E社は育児休業などの制度利用を促すことにより、特定の従業員に業務が集中することを防ぐための対策として担当業務のローテーションを行うことで、業務が分散され、時間外労働の削減につながると助言を受けた。制度の申出がしやすい環境を整え長時間労働の防止と業務の標準化を図りたいという回答があった。

役割等級制度の導入

F社は、従来のあいまいな等級制度から、専門性に基づく「役割等級制度」への移行を検討している。人材不足や高齢化への対応として、貢献度や役割に応じた処遇が有効であり、従業員の役割が明確になることで、会社が求める人材の育成にもつながる。そのため、F社は役割定義書の作成を進める意向を示した。

3.電子黒板（デジタルホワイトボード）導入に関する報告

2025年7月より、会議の準備時間や議事録の作成、情報共有の時間短縮を図り、労働の効率化を目指して電子黒板（デジタルホワイトボード）を導入し、組合員および準組合員への貸出を開始した。3社から申し込みがあり、それぞれ会議やセミナーで活用された。

会議で利用した組合員からは、従来使用していたプロジェクターに比べて準備時間が短縮されたとの声が

あり、また資料の共有が容易になったことで印刷や配布の手間が省けたという意見も寄せられた。

セミナーで利用した組合員からは、電子黒板にパソコン画面を投影できるため準備が効率化されたほか、オンラインでのセミナー実施が容易になり、現地に赴くことなく受講できるようになったことで移動時間の削減にもつながったとの報告があった。

今後も利用状況を踏まえながら、電子黒板の活用を広げ、より快適で効率的な業務環境の整備を目指していく。

4.YRCインフォネット（情報共有デジタルシステム）導入に関する報告

組合と組合員及び準組合員間の連絡手段に際し、FAXおよび電話、並びに組合員が事務局窓口にて受取るなど、アナログ作業にて行っており、組合員は紙ベースの書類を社内回覧後、申込内容を記入集計し、FAXおよび手渡しにて組合事務局に送付するため、業務処理時間が負担増となっている。そのため組合と組合員との情報の受け渡しに際し情報共有・処理にあたる業務時間削減を図り組合員の労働効率向上に繋げるYRCインフォネット（情報共有デジタルシステム）を構築した。

YRCインフォネットは、組合の事業案内を配信する「情報共有管理」、理事会や委員会、各ブロックなどで使用した会議資料を配信する「会議資料管理」、組合事務局との連絡手段の一つとなる「メール管理」の機能を備えたシステムである。また、YRCインフォネットはwebサイト上で運用されているため、組合ホームページからログインすることで、PC・スマートフォン・タブレット端末などから、事業の出欠回答、資料のダウンロードなどをいつでも行うことが可能となり、組合と組合員及び準組合員の情報共有・処理にかかる業務時間削減につながるシステムとなっている。

当組合ではYRCインフォネット導入のため、全組合員および準組合員に向けた「新たな情報共有システム導入と運用説明会」を2025年9月8日（月）、9日（火）、17日（水）、18日（木）の4日間にわたり流通会館で開催した。説明会では、YRCインフォネットの概要や、登録者名簿作成について、本稼働スケジュールについて等の説明が行われ、説明会終了後には個別で質問を受け付けるなどして、YRCインフォネット活用に向けて周知を進めた。

本稼働後は徐々にFAXなどの案内からYRCインフォネットへ移行し、将来的にはほぼすべての案内をシステムで行うため、組合員及び準組合員の皆さまには運用のご協力をいただきたい。



▲情報共有システム説明会の様子



▲電子黒板

山梨県流通センター YRCインフォネット

トップ ダッシュボード（利用者専用） 検索

一覧

- 利用案内管理
- 情報共有管理(本運用)
- 会議資料管理
- メール管理

操作方法

- マニュアル(利用者専用)

新着	閲覧	登録番号	配信日	文書	回答期限	回答状況	更新者	更新日時
●		B-000100	2025/11/21 金	新入社員研修受講のお知らせ	2026/03/31 火 5ヶ月後	未読/未回答	山 事務局	2025/11/19 水 17:44
		B-000099	2025/07/11 金	第54回通年総会の開催について	2026/05/22 金 6ヶ月後	未読/未回答	山 事務局	2025/11/19 水 16:18
		C-000098	2025/07/08 火	令和6年度健康診断 受診者リスト送付について	2026/06/30 火 8ヶ月後	回答済	山 事務局	2025/11/19 水 16:17
		D-000097	2025/07/11 金	トラクター・ミニナル燃料給油所の燃料販売価格について	2026/04/09 木 5ヶ月後	未読/未回答	山 事務局	2025/11/19 水 16:17
		D-000096	2025/07/08 火	FAX送信№016配信	2026/03/31 火 5ヶ月後	回答済	山 事務局	2025/11/19 水 16:16
		B-000095	2025/07/08 火	健康診断 受診者リストアップロード用ページ	2026/06/30 火 8ヶ月後	未読/未回答	山 事務局	2025/11/19 水 16:14

※期限を過ぎた場合には、事務局までご連絡ください。

新着	閲覧	タイトル	分類	閲覧可能終了日	配信状況	更新者	作成日時
●		経費委員会 会議資料	経費委員会	2025/11/26 水 5日後	配信中	山 事務局	2025/09/22 月 10:53

※期限を過ぎた場合には、事務局までご連絡ください。

新着	閲覧	問い合わせ内容	メール件名	更新者	更新日時
		情報共有	情報共有-健康診断 受診者リスト送付の案内(マニュアル用)	山 伊藤 幸子	2025/11/20 木 13:47
		情報共有	情報共有-健康診断 受診者リスト送付の案内	山 山崎 ゆう子	2025/11/20 木 13:35

▲YRCインフォネット トップ画面

今こそ見直しのタイミング

就業規則対策セミナーを実施



▲鈴木総合事務所
代表 鈴木信貴氏

就業規則対策セミナーが中央市商工会共催、山梨県商工会連合会協力のもと、2025年8月21日（木）に流通会館で開催された。

講師は、中小企業診断士・社会保険労務士鈴木総合事務所代表の鈴木信貴氏が務め、9社15人が参加した。

現在の日本社会では、生産年齢人口の減少による生産性の低下や、働きすぎによるワークライフバランスの崩れが課題になっている。こうした背景から大きく変化している労務管理の最新の情報を把握し、働き方改革に合わせて就業規則を見直すことの重要性が高まっている。

鈴木氏は、「コロナ禍が収束し、働き方改革の完全施行を迎えた今こそ、改めて労務管理を“点検”し“見直す”必要がある」と述べたうえで、就業規則や

労務の見落としがちなポイント、改善すべき点を解説。さらに働き方改革を定着させるために必要な具体的な手法を紹介した。

最後に、鈴木氏は「就業規則の見直しにあたっては、専門家のチェックが最も重要である」と強調し、セミナーを終えた。



▲セミナーの様子

SDGsの重要さを再認識

ワークショップ 3社から5人が出席し研修

2030SDGsワークショップが2025年7月16日（水）に流通会館で開催され、3社から5人が参加した。

講師は組合員(株)アドヴォネクスト代表取締役社長で2030SDGs公認ファシリテーターでもある井上雅博氏が務めた。

このワークショップは「2030SDGsカードゲーム」を用いて、SDGsの本質を「体験」し「理解」することを目的として実施された。参加者は「お金」と「時間」を消費して「プロジェクト活動」を行い、それぞれに与えられたゴールの達成を目指した。ゲーム内では2030年の世界状況が「世界の状況パラメーター」として示され、「経済」・「環境」・「社会」の数値が各参加者の行動によって、増減していく仕組みにもなっている。そのため、参加者たちは自らの目標と世界全体の状況を意識しながら、プロジェクトを実行した。

ゲーム前半は「経済」に偏った「世界の状況パラメーター」となったが、後半には自分のゴール達成だけでなく世界全体のバランスを考えながらコミュニケーションを取り合い、最終的には参加者全員が与えられたゴールを達成。偏りのない、バランスの

取れた世界を実現することができた。

参加者からは「自分だけでなく、周囲の状況にも目を向けることで、ゴールを達成できて良かった」「ゲームを通じて個人の行動が与える影響の大きさを実感し、今後の日常生活でも意識して行動していきたい」といった声が寄せられ、SDGsの重要さを改めて認識する有意義なワークショップとなった。



▲カードゲームでSDGsを学ぶ参加者たち

2025年団地内美化活動 活動報告

当組合では、働きやすく快適な団地環境の維持を目的として、毎月「リサイクルの日」および「団地内一斉清掃の日」を設け、組合員企業の協力のもと、



団地内共有地の清掃活動を実施している。

今年も多くのご組合員の皆さまにご参加いただき、歩道の草取りやゴミ拾い等、積極的な環境美化活動が行われた。事務局においても定期的に除草剤を撒き、団地内の景観維持に努めている。

また、リサイクル活動では、1月から9月までの間にシュレッター紙4,690kg、プラスチック類6,868kgを回収した。

毎年恒例となっている蛍光管の廃棄処分は、今年も7月に実施し、13社から110kgの蛍光管を回収した。来年も7月に処分の日を設ける予定であるため、処分を希望される企業はぜひ活用いただきたい。

今後も組合員企業と連携しながら、団地内の環境整備活動を継続・発展させていき、働きやすい環境づくりを行っていききたい。引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

～歩道の枯草処理についてのお願い～

冬季を迎え、歩道の草が枯れたままの状態となっております。

雑草が伸びていると、視界の妨げになるだけでなく、ポイ捨ての原因にもつながります。

会社に面した歩道の除草および枯草の処理をよろしくお願いします。



団体優勝は日医工山梨グループC

ボウリング大会 個人は五十嵐さん1位

第26回山梨県流通センターボウリング大会は2025年6月10日（火）・13日（金）・20日（金）・25日（水）の4日間に予選大会、7月11日（金）決勝大会が、甲斐市の大統スターレーン双葉で開催された。

今年は18社240人の参加があり、大いに盛り上がりを見せた。

試合の結果、団体の部優勝は日医工山梨グループC、準優勝は甲信食糧(株)A、3位はむろい(株)Aとなった。

個人の部では、五十嵐雄二さん（(株)日医工山梨）が2ゲームトータル396で優勝を飾った。

上位（3位まで）の結果は次の通り。

団体の部（2ゲームトータル）

※敬称略

順位	会社名	メンバー	スコア
優勝	日医工山梨グループC	五十嵐、相場、大久保、早川	1,264
準優勝	甲信食糧(株)A	諏訪田、中込(沙)、逸見、中込(武)	1,224
3位	むろい(株)A	上田、田中、清水、伊藤	1,131



▲団体優勝の日医工山梨グループCチーム



▲団体2位の甲信食糧(株) Aチーム

個人の部（2ゲームトータル）

※敬称略

順位	氏名	会社名	スコア
優勝	五十嵐雄二	(株)日医工山梨	396
準優勝	中込沙耶	甲信食糧(株)	336
3位	山本一博	国土防災技術(株)	324



▲個人の部1位五十嵐さん

43社、624人が受診

集団健康診断 健康意識の向上期待

当組合の集団健康診断が2025年8月4日（月）、5日（火）、6日（水）、7日（木）、8日（金）の5日間、流通会館で開かれ、43社624人が受診した。

健診は、山梨県厚生連健康管理センターへ依頼し、生活習慣病予防健診などの基本健診に加え、エコー検査、腫瘍マーカーといった多数のオプション検査

項目の受け付け、手配をいただいた。

会場で住友生命保険相互会社による『血管年齢測定』、体の水分、タンパク質、ミネラル、体脂肪を分析する『InBody』を実施。今回の結果を今後の自身の健康意識向上に役立ててほしい。



▲採血を受ける受診者



▲住友生命ブースの様子

環境未来(株)が初優勝

ソフトボール大会 8チームが熱戦展開

山梨県流通センターソフトボール大会が2025年10月19日（日）に釜無川スポーツグラウンドで開催された。

開会式は淡路研修厚生委員長のあいさつで始まり、恒例のラジオ体操を全員で行った後、予定通り試合開始となった。

参加チームは8社、127名で、トーナメントにより各チーム白熱した試合が展開された。

結果は、環境未来(株)が初優勝、準優勝は甲信商事(株)、3位は日本連合警備(株)という成績となった。

今後も、スポーツを通じて流通センターで働く方との交流の輪を広げるとともに、日頃の運動不足解消を図っていただきたい。



▲優勝した環境未来(株)



▲準優勝した甲信商事(株)

2025年度 協同組合山梨県流通センターソフトボール大会



インフルエンザ予防接種

734人が受け、流行に対応

インフルエンザ予防接種が2025年10月24日（金）、29日（水）、30日（木）、11月10日（月）に、医療法人啓徹会昭和・市川メディカルクリニックの協力により、組合員・準組合員従業員とその家族を対象に行われ、733人が接種した。

今年は夏の猛暑や寒暖差の激しい期間が長く続いた影響で、免疫力の低下が懸念されており、2025年のインフルエンザは、「早く・広く・長く」流行するといわれている。今年は特に早めの対策が重要になるだろう。



▲予防接種の様子

組合員の変更

組合員名	変更前	変更後
リコージャパン(株)	山梨支社長 田中 弘輝	山梨支社長 廣 圭介

～組合からのお知らせ～

会社の代表者や団地内の責任者（支店長や所長等）に変更があった場合、流通センター事務局までご連絡ください。（TEL：055-273-4711）



中込理事長、県政功績者に

当組合理事長（株）システムインナカゴミ代表取締役 中込裕氏が産業部門の県政功績者として表彰された。誠におめでとうございます。

『事務局日誌』 ～ 7～10月の主な会議等 ～

◆7月

- 1日 正副理事長会議
- 8日 南ブロック懇談会
- 8日 廃蛍光管処分
- 11日 ボウリング大会決勝
- 14日 リサイクル・一斉清掃
- 14日 営業力強化セミナー
- 16日 SDGsワークショップ
- 18日 納涼懇親会
- 23日 東ブロック懇親会
- 25日 北ブロック懇親会

◆8月

- 4～8日 集団健康診断
- 5日 正副理事長会議
- 8日 リサイクル・一斉清掃
- 20日 団地再整備特別委員会
- 21日 就業規則対策セミナー

◆9月

- 2日 正副理事長会議
- 8日 情報導入システム導入説明会①
- 9日 情報共有システム導入説明会②
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 17日 情報共有システム導入説明会③
- 18日 情報共有システム導入説明会④
- 19日 理事会
- 19日 ソフトボール大会主将会議
- 24日 研修厚生委員会
- 25日 北ブロック懇談会
- 26日 総務委員会
- 26日 LoMAの会

◆10月

- 6日 正副理事長会議
- 9～10日 新入社員フォローアップ研修
- 10日 定例懇談会
- 11日 北ブロック懇談会
- 14日 リサイクル・一斉清掃
- 15日 DX推進委員会
- 16日 BCP対策会議
- 19日 ソフトボール大会
- 24～25日 役員視察研修(協金沢問屋センター)
- 24～30日 インフルエンザ予防接種

かいがね

ウォーキングを始めて20年程になる。もちろん健康のためではあるが趣味でもある。いつもは町内を気ままに歩くのだが、時には目的を決めて脚を延ばすのがいい。そこでこの秋、今まで歩くことのなかった境川を歩いた。境川は大正、昭和の俳壇の巨星飯田蛇笏の生誕の地であり四男の龍太もここで産まれた。飯田家は元々名字帯刀を許された名家であり蛇笏が「山廬」と名付けた生家が残る。歴史ある神社仏閣も散在しそんな境川の歴史や文化を辿ろうとこのウォーキングを思い立った。

さて、了解を得て境川総合会館に車を置きまずは山廬を目指す。歩き始めて20分くらいで創建は不明だが武田信玄が再建したとされる石橋八幡神社に、続いて「大ナラ」と呼ばれる「コナラ」が群生する若宮神社で小休、そこから1時間ほどの上り道で山廬に着く。山廬は築後約200年となるが今でも龍太の子息秀美夫妻が住んで守っている。その日は月に2回の山廬の公開日に当たり、お二人と親しく話が出来た。もちろん蛇笏、龍太の俳人としての生活や足跡のほか会話の中で秀美氏が私の高校の後輩であることも知り一層親しみを感じるようになった。驚いたのは庭にある樹齢400年の松の保存のご苦勞、竹林に囲まれているため春には床下からタケノコが生えるという笑えそうな話もあった。ここで蛇笏9歳の句を知った。「持つ花に落つる涙や墓まゐり」。素人の感想ではあるが9歳にして早くも卓抜した才能の片鱗と思えるがどうだろう。話の終わりに、ご夫妻の勧めで山廬の裏手から10分ほどにある「後山（ごさん）」と呼ぶ小高い丘に登った。遠く八ヶ岳や茅ヶ岳、南アルプスが望まれ、甲府盆地は足下にある。ここで詠んだのだろうか、「芋の露連山影を正しうす」。蛇笏の代表作の内に数えられる一句を思い出した。

山廬からしばらく歩くと長国山聖應寺が在る。大月の猿橋と同じ構造の反橋を渡り、県内の仏教建築の変遷を知る上で重要と言われる仏殿や開山堂にお参り。寺には龍太の句がある。「山に入る橋の足音灌仏会」。昼近くとなり何はともあれ境内の四阿（あずまや）で弁当を開ける。杉木立を渡る風が心地いい。昼食を済ませてさらに坂道を辿る。30分程上ると石和出身の作家、深沢七郎の代表作「檜山節考」の文学碑に着く。この小説の舞台は姨捨伝説の有る信州とされているが、作者が描いている人情や地形はここ境川小黑坂とされ、使われている言葉は甲州弁である。山村の森閑とした佇まいは姨捨伝説を彷彿させる。

ここを折り返して帰路に向う。帰り道はひたすら下り。途中、飯田家の墓所がある。名家と言われる飯田家の墓とは思えない簡素な墓だが、墓石の文字は龍太の筆跡である。墓に合掌してしばらく歩くと板額塚（はながくづか）に至る。弓の名人浅利与一の妻、板額御前がここ境川で安産祈願をしたと伝えられ、そこから20分ほどでスタート地点の境川総合会館に着く。行程約10km、4時間弱のウォーキングとなった。（M）